



特集 全国高校教育模擬国連大会で最優秀賞獲得

NO.60

8月6日（月）7日（火）に渡って第2回高校教育模擬国連大会が品川区で開催されました。この大会は模擬国連をなるべく多くの人に知ってもらうために、応募した生徒は事前審査が無しで誰でも参加できるようになっています。夏休み中ということもあり、日本各地から700名近い生徒が参加しました。「国際安全保障の文脈における情報及び電気通信分野の進歩（サイバーセキュリティ）」という何やら難しそうなお題について4つの議場に分かれて会議が進められました。

分かりやすく言えばインターネット上で個人情報や国家機密に関わる情報が不正入手されないようにするために各国はどんなことをすべきかをご理解いただければ結構かと思います。日本を始めとする先進国ではインターネット環境が十分に整っていますが、一方で国によってはセキュリティを議論する前にそもそもインターネットが一般国民に普及していないケースもあります。どの国の大使を担当するかによって温度差が大きく合意形成をするのは難しいテーマと言えます。

本校からセルビア大使として出場した高校2年生飯野 諒平君、三浦 紘君、奥山 周亮君がB議場において見事最優秀賞を獲得しました。3名から原稿を寄せてもらいましたので、現場の交渉における苦勞などを感じ取っていただければ幸いです。



左から三浦君、飯野君、奥山君

品川区立総合区民会館きゅりあんにて

高校2年8組 飯野諒平

全国から集まる強豪大使たちに知識で打ち勝つことは不可能です。しかし知識に恵まれた、頭のいい強豪大使たちは、自分の立場や他の人からの見られ方を気にしがちです。そして自分が議場を動かしてやる、というエゴ丸出しの議場行動を行います。どんなに優秀で、知識があっても、そんな人は他の大使に好かれません。

セルビア大使は他の大使に好かれる行動を取ることに専念しました。配布する資料は色付けをして、分かりやすくする工夫をし、大きいスケッチブックを用意して各大使の意見を付箋で貼り付け、全員が議論に参加できるようにしました。リーダーとは知識で相手を圧倒し、「無双」する人ではありません。各大使の参加を促し、皆と共に話し合っって議論を進めていく仲介者こそが、リーダーだと思います。

議場に入ってきた大使たちには全員に挨拶しました。他の強豪大使たちは編集や作戦練りで忙しくしており、入ってくる大使たちには目を向けません。中学はサッカー部、高校はハンドボール部。「会ったら1秒で挨拶。」自分にとっては当たり前なことでした。しかし、そんな些細な礼儀が賞の決め手だったのかもしれない。

高校2年1組 三浦 紘

僕たちが参加した全国高校教育模擬国連大会は、今年で第二回目となる新しい全国大会です。今回僕は初めて全国大会に参加しました。大会初日、スーツケースを持って遠方から来ている人もいて、いつもの会議と雰囲気は全然違い、緊張しました。

この大会の議題は「国際安全保障の文脈における情報及び電気通信分野の進歩」です。簡単に言うとサイバーセキュリティをどう確保するかです。この問題には、表現の自由やサイバーセキュリティに関する途上国への支援など、ほかの事柄も絡んでくるため、全体像を把握するのに苦労しました。また、国家機密の情報も多いため、情報を手に入れることが難しく、数少ないデータの行間を読みながら自国の立場を推測しなければなりません。

会議当日もたくさんの困難に直面しました。どの大使も自国のスタンスをしっかり理解していたので、序盤はなかなか説得することが出来ませんでした。そんな時には、こまめにペアの二人と情報共有をすることによって、自分が次に何をすれば良いのかを明確にすることで状況を打開することができました。

この大会では、貴重な経験をすることができました。その一つは、全国から集まった高校生と議論することで、今まで思いつかなかったような意見や考え方に触れられたことです。様々な意見や考え方を知ること、柔軟に考えることや、多角的な視点で物事を見ることを身につけられた気がします。これらは今後のグローバル社会で生きていくうえで大切になってくると思います。この大会で得たものを今後の大会やこれからの人生で活かせるように努力していきます。

今回、私は初めて模擬国連で公式大会、それも、全国規模で行われた物に参加しました。全国を名乗るだけあって北は北海道、南は沖縄まで500人以上の参加者がいました。

この全国大会はNYに繋がる方の全国大会よりも参加のハードルは低いのですが、私たちは所謂、上級者議場として設置されたB議場に割り振られました。上級者ばかりなのもあって東の強豪渋谷や西の強豪西大和などの名だたる学校も勿論同じ議場に居て、一筋縄では勝てないのを会議が始まる前から感じていました。

そんな議場で今回、私たちが最優秀賞を頂けた要因、つまるところ勝因はチームワークだったと感じています。

参加した3人の中で、飯野君は大使を集めてグループを形成し、政策を話し合っって作っていく。三浦君は飯野君が作ってくれた政策を他の大使に説明し、意見の齟齬を解消したり、政策を理解してくれる国を増やす。私は飯野君が作ってくれた政策をもとにして、他のグループと話し合い、政策をより多くの国が同意出来るものにする為の交渉をする。といった風に、飯野君が中身、三浦君が調整、私は外部と役割分担をした上で連携出来たのが大きいと考えています。ここに関してはどの大使にも優っていた自信があります。

他の大使がチームワーク不足で時間を無駄にしたり、同じことをしてしまっている中、効率的に動き、効率的に時間を使えたことで能力や経験の差を埋めることが出来、それが最優秀賞という結果に繋がったのだと思っています。

交渉風景



これから実施される研修の情報 海外で学ぶ

ジャパン・ソサエティー ジュニア・フェロー リーダーシップ プログラム

(Japan Society Junior Fellows Leadership Program) (高校1・2年生向け)

(以下、パンフレットから一部抜粋)

ジャパン・ソサエティーは1907年にニューヨークに設立された米国の民間非営利団体です。個人、法人、財団からの支援・協力のもと、全米随一の規模を誇る日米交流団体として、幅広い活動を展開しています。

当プログラムでは、毎年数名の志の高い日米の高校生対象にジュニアフェローを選出し、国際交流を通して日米の将来のリーダーの相互文化理解とネットワークを広げ、また参加高校生が将来のリーダーとして国際社会への更なる関心を高め、国際社会において必要な知識や実践力を養う機会を提供することを目的としています。

研修日程：2019年3月9日（土）～3月29日（金）

研修先：アメリカ（ニューヨーク、ワシントンDC及びその周辺）

滞在形式：ホームステイ及び一部ホテル泊

募集人員：全国から10名（各校からの応募は2名まで）

条件：英検準2級以上、もしくは同等の資格を有する。

学校長、担任が推薦する成績優秀な生徒

費用：17万円

校内応募締め切り：9月29日（土）までに下記の小論文を添えてグローバル教育部まで申し出て下さい。

小論文テーマ：「将来の目標やキャリアの希望を達成する上で、Junior Fellows Leadership Programでの経験をどう役立てたいか」

横書き800字以内（ワープロ使用可）字数内に学校名・氏名を含む。題名は不要。

A4サイズの用紙を使用して下さい。

応募が1名であっても校内選考の結果によっては推薦できない場合もあります。

各学校からの応募終了後にジャパン・ソサエティーによる書類選考、第2次選考として面接試験が課されます。最終合格者には事前研修が課され、出席必須となります。